

令和元年度第3回幕別町創生総合戦略審議会議事録

1 開催日時

令和元年11月28日（木）18:30～20:00

2 開催場所

幕別町役場3階会議室A・B

3 出席委員（17名）

森委員、中田委員、藤原委員、加藤茂樹委員、岩谷委員、宮田委員、大槻委員、
高道委員、山本委員、喜多委員、仙北谷委員、鳥井委員、細谷地委員、加藤リエ委員、堀委員、
大山委員、森田委員

※佐々木委員、房川委員、堀川委員は欠席

4 審議

次期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について

5 事務局出席者

幕別町企画総務部長	山岸 伸雄
企画総務部参事	川瀬 康彦
〃 政策推進課長	谷口 英将
〃 政策推進課副主幹	中田 周呼
〃 政策推進課副主幹	西明 正博
〃 政策推進課副主幹	佐々木哲也

6 傍聴者

2名

7 議事録

(企画総務部参事)

ただいまより、令和元年度第3回幕別町創生総合戦略審議会を開会いたします。

議事に入る前に、事前にお配りしております資料を確認させていただきます。

資料1から資料5まで用意しておりますが、皆様お手元にございますか。

資料が無いという方がいらっしゃいましたら、こちらまでお声を掛けてください。
よろしいでしょうか。

なお、本日、佐々木委員、堀川委員、房川委員から欠席の連絡がありましたので、ご報告申し上げます。

それでは、ここからは藤原会長から議事の進行をお願いいたします。

(藤原会長)

皆さんこんばんは。

本日は、素案の案ということで、内容が盛りだくさんとなっております。

気になる点などございましたら、ぜひご発言いただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく
お願いいたします。

それでは議事に入ります。

議案第1号、次期幕別町まち・ひと・しごと創生総合戦略素案(案)について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

10月8日に開催した第2回の審議会において、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、素案(案)を作成しました。本日は、ご意見を反映した基本目標、基本的方向及び具体的な施策の変更箇所や新たに素案で示す項目を中心に説明します。

はじめに、第2回の審議会で皆様からいただいた意見をあらためて共有させていただきます。
資料1をご覧ください。

1ページ目になりますが、岩谷委員から都市部との関係人口の創出・拡大の項目で、岩谷委員が取り組まれている農家民泊について、受け入れた修学旅行生を管内の大学や町内での就職に取り込んでいく施策、また、移住・定住対策では、副業や起業などを意識した施策を検討いただきたいとのご意見をいただきました。

2ページ目になりますが、高道委員からスポーツ指導者を招いた指導という項目を入れてはどうかとのご意見をいただきました。

ページをめくっていただき、3ページ、4ページになりますが、森委員、堀委員からは、中札内高等養護学校幕別分校の魅力化や特別教育支援の充実という項目を入れていただきたいというご意見、また、岩谷委員からは、コミュニティ・スクールなど高校との連携協力や幕別町独自の高校支援や魅力化を図ってほしいとのご意見をいただきました。

ページをめくっていただき、5ページ、6ページになりますが、多くの委員から障がい者の自立支援として、企業側の障がい者に対する理解や雇用などの要望があったところです。

これらの意見を反映させたのが、素案の（案）になります。

資料は資料2、資料3になりますが、骨子から素案にかけてどのように反映されたか説明するため、資料3の新旧対照表をご覧ください。

左側が骨子、右側が素案（案）となっており、素案（案）の朱書きの箇所が、委員の皆様からのご意見等を踏まえ修正した箇所となっています。個々の説明は割愛させていただきますが、ご意見などありましたら、後ほどご発言願います。

ここまで、骨子から素案にかけて変更箇所を中心に説明しましたが、ここからは、素案の構成など全体像について説明します。

資料2の素案（案）をご覧ください。

まず、1ページから6ページまでは総合戦略策定の背景や目的、推進・検証体系などを整理したものとなっております。こちらは、第1回の審議会で説明しました総合戦略の策定方針や第2回の審議会で説明しました次期総合戦略の策定の考え方などをもとに記載しております。

これまで説明した内容を可視化したものであり、特段、注釈が必要な項目はございませんので、説明は割愛させていただきます。

次に7ページをご覧ください。

こちらは、次期総合戦略の見直しに当たってのポイントをまとめたものであります。

これまでの審議会でも説明しておりますが、見直しにおける重要な視点として4つにまとめました。次期総合戦略を推進するに当たり、今後、このような視点を意識して施策や事業を組み立てるよう、町長をはじめ職員同士で認識を共有しているところであります。

少しページをめくっていただき、27ページをご覧ください。

総合戦略では、町がSDGsの理念を意識し、施策を推進していることを示すため、各施策がSDGsのどの目標に紐付けされているのかを可視化しました。SDGsそのものが町民の皆さんにもまだ浸透されていないと思いますが、現在、総合計画にSDGsの理念を反映する自治体が増えており、周辺自治体ですと音更町では、町民も巻き込んだSDGsの研修会を実施しており、SDGsの必要性や可能性などについて勉強していると伺っております。

恐らく、向こう数年間では、総合計画や分野ごとの個別計画にSDGsの理念を盛り込むことが標準となるが見込まれますことから、人口減少対策として横断的な施策をとりまとめた計画であります総合戦略に反映することで、町としましても対外的にSDGsの目標達成に向けて取り組んでいることを町民の皆さんや町内の事業者の方に認知いただくことを目的として記載したところであります。

先般、11月8日に職員研修としてSDGsを学ぶ研修会を開催したところですが、今後は、議会や町民の皆さんを対象としたセミナーを開催するなど、SDGsの理念を皆さんと共有していきたいと考えております。

素案の構成に関する説明は以上であります。

続いて、数値目標とKPIについて説明します。

数値目標及びKPIについては、資料4-1、4-2にまとめておりますので、そちらをご覧ください。

あらためての説明になりますが、数値目標は施策の効果、KPIは進捗状況を検証するための指標として設定しております。端的に言えば、KPIが伸びると数値目標が達成できるという構図となっております。

次期の総合戦略におきましては、町の施策や取組状況はもとより、町を取り巻く外部環境の変化なども踏まえ、国や他の自治体が次期総合戦略で掲げている指標や庁内の関係課が策定している個別計画で掲げている指標などを参考に設定したところであります。

基本目標1から順番にご説明します。

基本目標1では、「農業経営改善計画における農業所得合計額」、「納税義務者となる法人数」を数値目標として設定しました。基本目標1は、産業振興と雇用創出が施策の柱となりますので、本町の基幹産業である農業分野での指標と法人数の増加を単年度ごとに把握することができる指標として掲げました。

また、KPIでは、大きな特色としまして、「生乳生産量」、そして、地産地消の推進状況を把握するため「学校給食における地場産物利用割合」を設定したところであります。

続いて、1枚お開きいただき基本目標2であります。

数値目標は、「観光客入込客数」と「社会増減数の均衡」を設定しました。「観光客入込客数」は現行の総合戦略の目標を継続しておりますが、「社会増減数の均衡」については、近年、転出数が転入数を上回る社会減の状況が続いていることから、基本目標2の施策であります人の流れをつくることで、社会増減数を均衡させることを目標として掲げました。

また、KPIでは、インバウンド対策の推進状況を把握するため「訪日外国人宿泊客数」、そして、スポーツだけではなく芸術・文化分野での町内施設の利用状況など把握するため、「百年記念ホール利用人数」を設定しております。

続いて、1枚お開きいただき基本目標3であります。

数値目標は、「15歳未満の年少人口」と「合計特殊出生率」を設定しました。「合計特殊出生率」は現行の総合戦略の目標を継続しておりますが、「15歳未満の年少人口」については、周辺自治体と比較しても手厚い施策であります妊娠・出産への支援をはじめ、子育て世代を対象とした様々な事業などにより、より出生数や子育て世代の転入数の増加を図るため設定したところであります。

また、KPIでは、結婚から出産に至る町の取組の効果が把握できる目標はもとより、ライフスタイルに応じて働きやすい職場環境づくりを推進するため、道が推進する「北海道働き方改革推進企業認定者」の数を増やすことを設定しております。

1枚お開きいただき基本目標4であります。

数値目標は、「転出者数の抑制」を設定しました。基本目標4は安全・安心で豊かな暮らしができるまちづくりが施策の柱となることから、この施策を推進することで、町内に住み続けたいと思う人が増えることを見込み、この目標を設定したところであります。

KPIでは、行政の仕事や住民の生活に関する事項を職員が出向いて説明する「まちづくり出前講座開催回数」を新たに設定しましたが、町の取組を積極的に発信することで、幕別町の魅力などをしっかりPRし、町民の方が住み続けたい思っただけのよう取り組んでまいりたいと考えております。

以上が、数値目標及びKPIの説明となりますが、委員の皆さんにおかれましては、こういった指標はどうかといったご意見をいただきたいと考えているので、ご審議をよろしく願います。

一方、各施策を具現化する実施事業については、現在、予算編成中でありますことから、素案に記載している事業はまだ仮の事業であることをご容赦願います。次回の審議会には次年度

から実施する事業が概ね反映される見込みとなっているので、あらためて説明いたします。

素案に関する説明は以上であります。

(藤原会長)

ただ今の説明につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。

(中田委員)

基本目標1のKPIで「創業支援件数」の指標がありますが、現行の総合戦略では創業事業所数となっています。町の支援を受けずに創業する事業者を把握するのは難しいという記載がありますが、新規創業する場合、町の援助を受けなくても町内に就業する事業者も一定数いると思っております。そういう部分で言えば、町の施策を受けた受けないに関わらず、現行の指標のとおり創業事業者数を目標に掲げることはできないでしょうか。

(事務局)

この指標は、商工観光課が所管しておりますが、当初、創業事業者数をKPIとして設定できないか商工観光課とも協議しました。やはり、町の事業を利用せず創業した事業者を把握することは困難であること、また、事業の進捗状況を把握する上でも創業支援件数として設定したところであります。

ただ、数値目標で掲げております納税義務者となる法人数には、町の事業を利用せず創業した事業者も含めて把握できますので、この指標をもって管理してまいりたいと考えております。

(森委員)

前回の審議会での発言を丁寧に反映いただき、素案の方にも基本目標3のところで北海道中札内高等養護学校幕別分校を記載いただきました。ありがとうございます。今、KPIのご説明をいただきましたが、KPIには中札内高等養護学校に関する指標が設定されていないのは何か理由があるのでしょうか。

(事務局)

中札内高等養護学校幕別分校に関しては、支援はしていますが、その支援に対する具体的な指標の設定が困難だったことが正直な理由です。養護学校への支援をする中で、今後数値が伸びていくような指標が立てづらかったことがあります。一方、清陵高校は設立して間もないということもありましたので、魅力ある高校づくりを支援することで入学者を確保することを目標として掲げたところであります。

(堀委員)

基本目標3の魅力ある教育環境の整備の部分になりますが、前回も発言させていただいた特別支援教育について幼稚園・保育所・小中学校についても、やはり言葉があった方が良く思っております。前回発言した際にインクルーシブ教育という言葉いただきましたが、その一言で伝わる言葉だなと思っていましたので、公立の小中学校・それから幼稚園・保育所といった公立の町内の教育機関という括りでぜひインクルーシブ教育を推進するという文言を入れていた

だきたいと思います。

理由としましては、この会議は幕別町の根幹に関する計画を作成する場だと思っておりますが、この計画にインクルーシブ教育の推進という文言があることによって、次世代育成や障がい者、福祉など様々な分野において、大事な指針となるの一つ、それから、例えば、私たちは、あと2年ぐらいで委員として任期を終えたり、職員の方も異動になるなどする中で、この場の話が計画に残っていなければその話がなかったことと同じになってしまいます。特に教育関係は長い時間をかけて継続して取り組むことが必要だと思っておりますし、やがてその取組が基本目標4の安全・安心で快適な暮らしができるということにつながると思います。

そういう意味でも、何とかインクルーシブ教育を盛り込んでいただきたいと思います。

(企画総務部参事)

ご意見ありがとうございます。前回、特別支援教育についてお話を受けましたが、これにつきましては、KPIとしては立てづらいつころもあるかと思っておりますけれども、どうしても入れなかったということではありますので、教育委員会や福祉課など関係課とももう一度協議をさせていただきたいと思っております。

次回の協議会では、できなければできない理由を説明できるようにしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

(鳥井委員)

KPI関係で細かいところですがよろしいでしょうか。基本目標1で新卒者町内就職者数とありますが、これは幕別町内に住む高校生や大学生が幕別町内で就職した人数ということでしょうか。

(事務局)

ここでの新卒者は幕別町内の高校を卒業した方に限らず、町内外問わず高校、短大、大学の卒業者が町内の事業所に就職した数であります。

(鳥井委員)

幕別町に色々な人が入って住んでいただくことが良いということであれば、近年では、中途採用を募集、採用する事業所も多いと思っておりますので、中途採用者も含めてはどうでしょうか。

(事務局)

毎年、商工観光課で町内事業者を対象として新卒者の採用状況などに関する調査を実施していますが、中途採用まで把握しているかは確認をしていませんでした。中途採用を含めたKPIとするかは、持ち帰って検討させていただきたいと思っております。

(鳥井委員)

現行の総合戦略の基本目標2のKPIには移住件数が設定されていますが、次期総合戦略では移住件数が設定されていませんが、それはどういう理由でしょうか。

(事務局)

移住という定義をどう捉えるかが難しいというのが理由です。転入数であれば、住民基本台帳で把握はできますが、何を持って移住とするのかそれを定義し、共有することが非常に難しいと考えておりましたので、次期総合戦略では設定しておりません。

一方で、移住件数には社会増減数の均衡や 40 歳未満の転入数も包含されると判断し、このような指標を設定したところであります。

(鳥井委員)

わかりました。同じ基本目標 2 の宿泊客数と訪日外国人宿泊者数についてですが、宿泊客数は約 3,600 人増加、外国人宿泊者数は 4,000 人以上の増加を目指すことになりませんが、数字だけ見ますと、国内宿泊客数は減る前提の目標値になっています。そもそも細かい目標値はどういう根拠でこの数字にしたのでしょうか。

(事務局)

こちらの目標値は、商工観光課が過去の宿泊地の伸び率などを踏まえて計算したものであります。外国人観光客に関して申し上げます、これは期待値も含めてだと思いますが、近年の伸び率も考慮しております。これから外国人観光客を意識した施策を打っていく必要があると考えております。

(鳥井委員)

国内客と外国人客の数字の伸びの整合性についてはどうでしょうか。

(事務局)

整合性をとるように調整します。

(鳥井委員)

基本目標 4 の数値目標の転出者数の抑制の考え方ですが、決して住みにくいから町外で出て行くということではないと思います。それを踏まえて、転出者数を見るか、転入者数を見るか二通りあると思いますが、転出者数を取り上げたのはどういった理由でしょうか。

(事務局)

転入者数は基本目標 2 で掲げていますが、こちらは幕別町内に人の流れをつくる施策を掲げております。そのため、交流人口や関係人口が増えることで、転入者数が増えていくことを想定しております。

一方、先程説明しましたとおり、基本目標 4 は転入された方ができるだけ長く幕別町に暮らしていただくための施策を掲げているため、転出者数の抑制と指標を設定しております。また、900 人という目標数値に対するご意見はあると思いますが、近年、転出者数は多くなっている傾向です。転出者数を維持、抑制するだけでもかなり大変な取組になると思っておりますが、何とかこの数値目標を目差していきたいと考え設定したところでございます。

(仙北谷委員)

いくつかご質問したいところがあります。

単純な話かもしれませんが、基本目標1のでKPIで生乳生産量があります。私の印象としては、幕別町は十勝管内の中でも畑作の印象が強くあります。もちろん、忠類地域では生乳の生産も多いと思いますが、畑作関係の指標がここに入っていないのは何か理由があるのでしょうか。

(事務局)

所管は農林課になりますが、特段、畑作に関する指標については検討していませんでした。幕別町が十勝管内でも畑作の主産地として認知されているということであれば、畑作の分野でも指標の設定について農林課と検討してしたいと思います。

(藤原会長)

この点について、森委員どうですか

(森委員)

仰るとおりだと思います。ただ、一つ言えますのは、ちょっと乱暴な言い方になりますが、気候変動による影響です。今では冷害はほとんどなくなり、気候による影響は受けづらくなりましたので、生乳生産の指標は表しやすいとは思いますが。

(企画総務部長)

今ご指摘がございました件についてですが、委員が仰るとおり幕別町は畑作が中心という印象が強いと思います。幕別町は畑作3、4品が中心となっていますが、実は畑作だけではなく、近年は野菜も大変生産量が多い産地でありますので、それらを含めて考えていかなければなりません。そのため、特定の作物に焦点を当ててKPIを設定することに妥当性があるのかというところが議論される必要があると思います。

数値目標は、経営全体として農業経営の改善計画を受ける農業所得の合計額ということで、所管課で数値目標を定めておりますので、その中に畑作も含めて農作物の生産性の向上が数値目標に含まれていますことをご理解いただきたいと思います。

(仙北谷委員)

ありがとうございます。数値目標に畑作もカバーされているということですが、その点についてもちょっとお聞きしたいと思います。KPIと数値目標の関係がどのような仕組みとなっているかお聞きします。

素案の6ページには、総合戦略推進に当たっては施策の推進状況を客観的に把握するため、基本目標ごとに数値目標、また、施策ごとにKPIを設定すると書かれています。これらのことを考えますと、この数値目標とKPIが噛み合っているのかどうか気がなります。

自動車でもギアが噛み合わないと進まないですし、アクセル踏んでいるだけではエンジンの回転数だけが上がって前に進まないことがあります。しっかりと数値目標と噛み合うKPIを入れるべきだと思います。極端に言えばKPIだけ上がって数値目標の数値が変わらないというこ

ともあり得ると思います。そうした数値目標と KPI が噛み合ったものになっているのかどうかの考えをご説明いただきたいと思います。

(事務局)

委員の仰るとおり、次期の総合戦略の指標設定に当たっては、数値目標と KPI が噛み合ったものとなるよう意識して設定したところでございます。裏を返せば、現行の総合戦略の KPI と数値目標は噛み合っていないようなものもあったと認識しております。

そういった反省も踏まえまして、次期総合戦略では、KPI の数値が伸びれば、数値目標も伸びていこう指標を掲げております。

基本目標 1 で申し上げますと、生乳生産量や新規就農者、法人経営体数が増えれば当然所得額も増えることになりまして、創業支援件数や町内就職者数、誘致企業者数が増えれば法人数も増えていくという認識であります。

ただ、総合戦略の中で我々の施策をしっかりと、町民の方や町外の方にもお示ししたいところもありますので、そういったところを意識して設定した KPI も中にはありますが、概ね KPI を達成できれば、数値目標も達成できるような構成としていることをご理解いただきたいと思えます。

(仙北谷委員)

しっかりと考えていることを理解しました。

最後に一つ気になる点がございます。

少し話は戻りますが、SDGs の考え方は非常に重要だと思えますが、SDGs の目標と基本目標を推進する施策の関連付けの考え方についてです。例えば、28 ページの基本目標 1 の施策 (1) に農業の生産性の向上と経営の安定化がありますが、飢餓や経済成長・雇用が関連することはわかりますが、安全な都市や生態系・森林というのがどう関連するのか、また、(4) の農業・自営業後継者及び新規就業者の育成のところで、ジェンダー平等は、男女分け隔てなく就業支援するというのは当然と思えますが、なぜ不平等の是正が関連されるのかといった点について補足していただきたいと思えます。

(事務局)

ご意見ありがとうございます。委員が仰ったようにそもそも SDGs がどんな目標なのかというところから説明していかなければならないと思っております。素案には SDGs の 17 の目標を端的にまとめた資料を掲載していますが、ここに記載しているものだけではなく、様々な分野に関連することを可視化するため、設定しているところです。

基本目標 1 の施策 (1) に農業の生産性の向上と経営の安定化で言いますと、目標 11 を掲げたのは、農業生産は我々の食料を確保するために必要であり、持続可能な都市及び人間居住に必要不可欠であること、また、目標 15 は、農業は農地の確保、輪作・転作というところから、土地の劣化の阻止などに寄与しますので、こうした目標に関連することを掲げております。

また、(4) の農業自営業の後継で言いますと、性別によって仕事で差別されるようなことのないよう、ジェンダー平等や不平等の是正を掲げております。

今申し上げましたとおり、町の施策が SDGs のどの目標を達成するために寄与しているのか

というところを可視化しておりますので、この総合戦略を推進する中で、委員の皆さんをはじめ、町民の皆さんにも我々の施策がSDGsのこの目標達成に役立っていることを意識付けるような取組をしていきたいと考えております。

（宮田委員）

漠然とした意見になりますが、基本目標4の具体的な施策を見て感じたのが、ハードの部分については取組を掲げていますが、人材発掘などソフトの面では物足りない印象がありました。

特に（5）の住民活動への参加への促進では、実施事業を見ますと公区運営費交付金事業や協働のまちづくり支援交付金事業がありますが、人づくりということを具体的に盛り込まないと、お金の使い方についての評価しか残らないという気がしたものですから、人材育成や人材発掘に関する施策を盛り込んだ方が良いという意見です。

（政策推進課長）

ありがとうございます。実施事業は3つしか明記していませんが、具体的な施策としては、地域おこし協力隊の活用や人材育成と明記しております。また、協働のまちづくり支援交付金のメニューにも、人材育成に関する項目があります。そういったことを踏まえまして、担当課とも相談しながらこのような標記をさせていただいております。

今後におきましても、毎年検証しながら事業を付け加えていきますので、ただ今いただいた意見は、十分に参考にさせていただきたいと思っております。

（加藤委員）

基本目標1から4まで通して説明を聞きましたが、KPIの設定についてはこれまでの取組に少し考え方を加えた程度で、あまりインパクトがないという感じで見ていました。今後、持続可能ということ言えば、毎年の検証も必要になってくると思いますが、その辺りの対応についてお伺いします。

また、町民として、行政が縦割りなところがあると感じておりますので、色々な施策に対してある程度俯瞰しながら、庁内横断して取り組んでいくことが必要ではないかと思っておりますが、どのように考えているのかお聞きします。

（事務局）

KPIの設定に関しましては、達成しづらいような指標は、基本的には立てないという考え方に立ちました。森委員や岩谷委員が仰ったように、現行の数値目標であります農業算出額のように外部の環境の変化に影響されやすい指標は外しております。

また、我々が掲げた施策の効果が可視化しやすいものもKPIとして設定しておりますが、インパクトがないと言われればそれまでですけれども、我々が向こう5年間で目指す施策に沿って、しっかり事業を実施することを踏まえてこのKPIを設定しているということをご理解願います。

また、検証方法ですが、毎年度、各指標の数値などの進捗状況や実績はこの審議会の中で検証を行ってまいります。検証する中で皆さんからこの施策をもう少し厚くした方が良いのではなどのご意見をいただいて、翌年度の事業に反映させるようにしていきたいと考えております。

そういうこともありまして、このKPIも国勢調査のように5年に1回の調査では、毎年の変化が把握できないため毎年把握できる指標を設定しております。

また、総合戦略を見てご理解いただけたと思いますが、一つの課で完結する事業が実は少ないです。例えば、農福連携が話題となっておりますが、福祉課と農林課が連携して進めていくなど、横のつながりを意識して事業を実施しないとKPIも伸びないと考えております。

総合戦略を作成する際にも、横の連携を意識して取り組むよう町長からも指示を受けて進めているところであります。我々も、横の連携がどうだったか検証しながら委員の皆さんに説明してまいりたいと考えております。

(藤原会長)

その他何かございませんか。第1号議案については終わらせていただきますが、私から一言発言させてください。

基本目標の施策内容や指標の設定の考え方のところまで見ますと、例えば、創業支援件数のところに空き地・空き家対策の達成状況をリンクさせるなどすると、より施策の効果がわかりやすくなるのではと思いました。

それから、観光入込客数という話題の中で、いつの間にか幕別町発祥のパークゴルフのことがきれいに書かれていなかったのが、ちょっと寂しい気がしました。やはり、パークゴルフが目的で町外から町内に来ている人も多いと思いますので、そういう人達をもっと来てもらえることも考えていただきたいと思いました。

商工会で働いていると様々な商談会に伺うのですが、そういう場所でパークゴルフの町をもっとPRしても良いのではないかと考えています。どうして、このような話をするかと言いますと、先月、商談で札幌に行った時にお会いした方が、今週もう3回もパークゴルフに行きましたという話をされたので、パークゴルフの町幕別から来ましたと言うと話が盛り上がりまして、今度来るときにパークゴルフのレイアウトの入れたものを持ってきますからと話をしたのですが、パークゴルフ協会に行ってもないんですね。

ちょっとパークゴルフについて思ったものですから話を言わせてもらいました。

それでは第1号議案につきましてはこれで終了させていただきます

続いて、第2号議案に入らせていただきたいと思います。

幕別町人口ビジョン(案)について議題といたしますので、事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

続いて、幕別町人口ビジョン(案)について説明します。

人口ビジョンについては、第1回の審議会におきまして、現行の総合戦略期間を中心に人口動態の分析を行うとともに、課題や今後の方向性についてお示ししたところであります。

一方、国からは各地域の現行の総合戦略期間の状況変化なども踏まえ、人口の現状分析と将来展望を踏まえ、人口ビジョンの改定を行う必要があると示されていることから、人口動態分析を行った上で、将来人口の推計と分析、人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察を中心に、幕別町人口ビジョン(案)として今回お示ししたものであります。

分析結果は、先程も申し上げたとおり、第1回の審議会でも説明したとおりですので、説明は

割愛しますが、本日は、現行の総合戦略期間の人口推移と、人口推計方法を中心に説明します。

資料5、「幕別町人口ビジョン（案）」の1ページ目の図2をご覧ください。

こちらは、人口ビジョン策定時からの改定前、つまり、現在の人口ビジョンの人口推計値と各年度末時点の住民基本台帳上の人口を比較したものでありますが、人口は昨年度末時点で推計値を0.05%下回っているものの、ほぼ推計値どおりに推移している状況であります。

一方、人口推計方法については、17ページをご覧ください。

①の推計方法に記載しておりますとおり、現行の人口ビジョンは、平成27年3月の住民基本台帳人口を基礎として町の近年の自然増減・社会増減の傾向等を踏まえつつ、平成27年に実施した住民アンケートで示された町全体の合計特殊出生率1.55を基本として、人口を推計していますが、この計画期間内でほぼ推計値どおり推移している状況であることなどを踏まえて、推計方法は現行のとおりとしたところであります。

ただ、最後に記載しておりますとおり、将来変動に大きな乖離が見込まれる場合には、必要に応じて改定を行ってまいりたいと考えております。

説明は以上であります。

（仙北谷委員）

2010年はそもそも推計していない状況であれば、無理につなげる必要はないと思います。

（事務局）

ご指摘ありがとうございます。わかりやすいような表記に修正したいと思います。

（岩谷委員）

人口ビジョンの最後の方に今後の方向性の記載があって、外国人の受入れに関する文言がありますが、この人口ビジョンの推計値には、技能実習生の増加数を踏まえて推計しているのでしょうか。

（事務局）

外国人の人口は町内でも人口約26,000人に対して0.4%ぐらいの比率ですので、総人口に及ぼす影響はないと考えていますが、今後5年間の中で恐らく外国人の方が、10倍の1,000人近くになれば、人口推計も上昇傾向になる可能性が高いと考えております。

ただ、この総合戦略が始まってからの期間で言いますと、12ページになりますが、住民基本台帳上の外国人人口は、この総合戦略が始まった2017年度には56人でしたが、昨年度末で110人と2倍近くになっている状況です。

これが5年後に5倍、あるいは10倍になっているかどうかは、我々の施策にも寄るところが大きいのと思いますが、外国人の人口が増えていけば当然その人口推移を踏まえた人口ビジョンに改定する必要があると考えております。

（藤原会長）

その他ありませんか。この前もお話ししましたが、外国人労働者はますます増えていくと思っております。私は、建設業ですが建設業もこれから間違いなく増えていくと考えてます。建

設業の場合、国交省が特定技能一号・二号という形で3年から5年に申請し、試験を受けることによって、滞在期間を伸ばし、いずれは日本の技能試験を受ければ永住できるようにしてあげたいと思います。

また、日本に来てから一ヶ月くらい勉強して、その受け入れ先に来るようですが、本当に質の良い方と悪い方と色々あるようです。もっと外国人が増えるようであれば、日本語教育を町で取り組んでいくことが大事だと思っています。

私の方からは以上ですが、皆さん何かありませんか。なければこれで終わらせていただきたいと思います。

事務局の方から何かありましたらよろしくをお願いします。

(企画総務部参事)

本日の審議会でのご意見を踏まえまして、今後反映させていかなければならないところもありますが、概ね素案が固まったものと考えております。

次回の審議会では来月中旬に議会の説明し、そこでの意見を踏まえた案の検討を行うものとしております。

なお、次回の審議会は12月26日木曜日を予定しているところであります。年末を間近に控えまして皆様方におかれましてはご多忙の中大変申し訳ございませんが、ご出席の方よろしく願いいたします。連絡は以上でございます。

(藤原会長)

それでは以上を持ちまして第3回の審議회를終わらせていただきたいと思います。今日は本当にどうもありがとうございました。